

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、朝・夕の申し送りの時、読み上げている。	地域密着にふさわしいホームの理念が作られている。玄関にも理念が掲げられている。毎日の申し送り時に当番の職員が理念を読み上げ、他の職員が復唱している。新入職員には仕事に就く前にホームの理念・運営方針を説明し理解してもらっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ケア会議などで他の施設や事業所と密に連絡を取っている。	区費を納め、町の草取りなどの奉仕活動にも参加している。月一回ボランティアによる紙芝居・腹話術などの地域の「お楽しみ会」にも近所の住民から声掛けをして頂いている。ホーム敷地の草取りなども近所の方が自主的にやったださり、ごく普通の近所づきあいの中で温かく接していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自由にホームに訪問して頂けるようにし、利用者と実際に接して頂き、理解や支援方法を知っていただくよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員の入れ替わりや、利用者の入れ替わり等で、なかなか運営推進会議を開催できていない。	運営推進会議は住民代表、区長、在宅介護支援センター職員、役場職員で構成されているが、今年になってからホームの事情により定期的に開催されていない。	グループホームとして地域の中で入居者が生活していく上でも運営推進会議はホームと地域を結ぶ有効な手段となると考えられる。ホームの現状やお願いを議題とし、より快適な入居者の生活に役立てるよう早期の開催を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の住民のホーム利用、あるいは入居に関して、積極的に働きかけ、町あるいは地域密着の他、市町村の必要など情報収集に努めている。	月に一回役場主催で各事業所のケアマネージャーや責任者、役場職員が集まり勉強会や話し合いが行われ参加している。介護認定更新時には情報の提供に協力している。運営上の不明な点については役場窓口相談し、適切なアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて学んで、日々のケアに生かすよう努力している。制限の範囲に該当する可能性がある場合は、家族に承諾を得て充分納得して頂いた上で実施している。	玄関の施錠はしていない。外出願望の強い方の居室の入口には音がなるような工夫がされている。職員間で話し合い居室で医師による点滴を安全に行えるようにと家族の了解を得て点滴時のみ施錠することがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修において学び、実践に努めている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、資料回覧し、研修している。一人の利用者が成年後見制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の退去、新規入居者の受け入れの際、説明や話し合いにより、安心して利用できるようにした。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	一人ひとりの利用者とのコミュニケーションをとり、率直に気持ちを表現して頂き、傾聴に努め、すぐに要求に応じる努力をしている。家族から意見・要望にもすぐに対応できるよう努めている。	「ヒューマンヘリテージ小布施便り」を毎月発行し家族へ送っている。日常の写真や管理者からのコメント、行事予定や参加の呼びかけなどが盛り込まれている。今年の「敬老の日」には家族への声掛けもする予定である。折にふれ家族には入居者の暮らしぶりを電話で伝え、情報を交換している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、職員と良いコミュニケーションをはかり、自由に職員の意見が言えたり、提案を取り入れ、働きやすい環境作りに配慮している。	朝・夕の申し送り時に意見交換をしている。申し送りノートを作成しその時々の方が記入され、他の職員が回覧により情報を得ている。職員から管理者に個々に相談をかけた意見や要望を伝えている。	1ヶ月に一回位の定例会の開催を望みたい。個々には職員と管理者との話し合いはできているが、全体の中で職員の意見を引き出し、全職員が意思統一するような場も必要ではないだろうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や、職員の要望にできるだけ答えて下さる誠実さがあり、率直に話し合いさせて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講者は、研修内容を回覧し、全職員で共有化を図っている。また、代表者もスタッフ全体の各時期に必要なと思われる研修を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や、ホームに訪問していただくなど、同業者と交流し、互いの情報交換をし、ネットワーク内での研修、交流会にも参加している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が、リラックスして安心して自分らしく過ごして頂けるよう、本人の言葉に傾聴し、動作や表情から心情を察し、素早く対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と共に何度か訪問して頂いたり、職員が自宅に訪問し、お話を伺って、できるだけ要望に沿えるよう努め、何でも自由に話せる良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアマネと十分に連絡をとり、情報収集に努め、引き続きケアを継続し、まず、必要な支援を充分に行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が、感謝の言葉やねぎらいの気持ちを職員に伝えたり、家族の一員のような暖かい馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子、体調の変化の際は、その都度、お知らせしている。また、行事の写真など、面会の際などに見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話やレクリエーション、歌をうたう際、回想法執行時、馴染みの人や場所を思い起こして懐かしんで頂いている。また、ご利用者の友人などの面会もある。	以前よりの友達がたびたび訪問して来る入居者がいる。お盆に家族とお墓参りに行く方もいる。今後も入居者と家族の繋がりを継続できるようにホームから必要な働きかけを行っていく意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内での作業やレクリエーションその他の交流時なるべく一つのテーブルで皆が顔を合わせて楽しめるよう工夫している。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナルケア及び死亡による退去があったが、退去後もご家族の精神面のケアに努め、何度か暖かい感謝のお電話やお言葉を頂けた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の口にする言葉に耳を傾け、その中から本人の意向を汲み取る努力をしている。	ほとんどの方が自分の思いを伝えることが出来る。散歩、買い物、食事などすぐにできることはなるべく優先して行っている。職員は入居者の状況に応じて声をかけ、反応を見ながら行動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、入居者の基礎情報を家族から聞き取り作成し、より本人の希望を叶えられるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心情の変化、通常と違う言動をした際は、連絡ノートに記入し、職員全員で把握できるように申し送りでも伝え、分析し、ふさわしい対応ですぐに応じられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人情報をもとにケアプランを作成している。入居者全員のケアプランをファイルにしてあり、すぐに見て対応できるようにしている。変化があった場合、連絡ノートに記入し、伝達している。	入居者や家族の希望を聞き、管理者と計画作成担当者2人で作成している。プランの見直しは期間を決めて行われている。職員へは管理者より報告があり、各々が入居者のケアプランを確認している。	各入居者のケアプランを十分に職員が理解し本人が満足するサービスの提供に心がけていただきたい。また、プラン作成時には現場職員も何らかの形で参加し立案されることを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録に事実の観察項目や言動を記入し、実際に対応した内容と、得た情報を記入している。また、日々の変化等は連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	役所の手続き代行、病院への付き添い等を行っている。理容院への出張依頼や、選挙に行きたいという利用者には、職員が付き添い選挙に行く。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小布施社協にボランティア団体として登録されており、ボランティアや町の行事を通じ地域との交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	高齢化に伴い、受診する機会が増し、家族では対応できない場合が多く、職員がゆだねられ、付き添い、主治医との連携を密にとっている。	家族の希望で、大半の方が入居時にホームの協力医に変更している。受診の際には職員の付き添いを行っている。協力医による往診もある。きめ細やかに協力医と連絡を取り合っているため本人や家族は安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員としては、看護師はおらず、主治医や契約している医院の看護師と連携を取り、受診や往診を依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何度か入院した利用者があり、職員が度々お見舞いに訪問したり、ドクターからの説明を家族と一緒に受けたりし、安心して入院できるよう努めた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応は、それぞれの家族や主治医との相談の上、決定している。その際、家族に十分に説明し、納得して頂けるよう努めている。	昨年より4件の看取りが行われた。契約をする前に「重度化・終末期について」の説明をし契約を交わしている。協力医との間には24時間連絡できる体制が築かれており、医師及び看護師の指示の下、家族や職員とも連携しつつホームでの看取りが行なわれる。職員には「緊急時の対応マニュアル」が配られ実践に繋がられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の実際の対応の経過の伝達をした。介護職の気付きから、すぐに医療機関と連絡が取れた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員による避難訓練と、消防署立会いの避難訓練を行った。	年一回以上の訓練が行われており、5月には消防署職員の指導の下入居者も数名参加し避難訓練が行われた。昨年スプリンクラーも設置された。玄関先には非常時持ちだしのリュックが2個用意されており、食料・緊急連絡先・手ぬぐいなどが入っている。	訓練も夜間や地震等の想定で行っていた。できる限り入居者が参加することも必要かと思われる。普段の日課の中で模擬避難訓練等を行うことも良いのではないだろうか。

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに優しく豊かな接し方、敬語を使い会話している。契約書にも個人情報取り扱い項目があり、説明している。また、外部からのお客様を受け入れることも家族に承諾を得ている。	苗字か名前に「さん」付けで呼んでいる。ホームの方針として入居者に対しては敬語を使用するように伝えてある。馴れ馴れしい言葉遣いなどの時は、原則、管理者が注意をしている。職員は「もし自分の身内だったら」と考え常に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を否定せず、最後まで傾聴している。苦情や不満など表現しにくい事も日頃から良いコミュニケーションをとり、言いやすい関係作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは、おおよそ決まっているが、一人ひとりの体調、希望に沿い、食事時間メニュー、1日の行動スケジュールを柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日中、パジャマでいることのないよう、日中は更衣していただいている。また、体調不良などでやむを得ず日中パジャマでいる場合は、家族に承諾を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が、色々な役割を持ち、食事の準備や配膳盛り付けするなどして参加している。参加できない方も食事の準備を見て楽しみにされている。	リビングにいと食事の用意をする音や匂いがしてくる。入居者の出来る範囲で、準備から後片付けを手伝っていただいている。職員を交え二つのテーブルで料理の出来栄などの会話をしながら食事をとっている。お誕生会には職員の手作りのケーキが振舞われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立と食欲低下や、充分栄養を取り入れられない方については、食事量・水分量をチェックし、摂取しやすいうように刻み食、ミキサー食、好きな食品など提供し補うよう調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、口腔ケア時、口腔内のトラブルの有無をチェックし、適したケアができるよう、スタッフ間で情報を伝え合っている。必要時、歯科受診をしている。		

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	気持ち良く排泄できるよう、定期的にトイレ誘導し、ゆとりある仕方です尿を待つよう支援している。	自立されている方の中にもリハビリパンツ使用の方がいる。個人記録の中に排泄チェック表の項目があり、それを参考に座薬や薬を使用している。支援が必要な方には職員が定期的に声掛けしトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排泄パターンに合わせて、水分の調整、緩下剤、下剤坐薬の使用調整や、乳製品を毎日飲用するようにしている。また、運動不足解消に軽体操、レクを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	床暖房により、冬期の寒い時期でも、いつでも快適に入浴ができる。各自、定期的に入浴し、汚染時や皮膚のトラブルがある方は、頻繁に入浴するように配慮している。	一週間に2回の入浴が基本となっている。本人の体調などにより清拭に変わることもある。ゆず湯や菖蒲湯など季節の香りを楽しむこともある。浴槽の両側から支えられる作りになっているので安心して入浴が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望や、スタッフが観察して、休息が必要と思われる時は、ホールのフロアに長座布団を敷いてあり、いつでも休める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関してファイルにしてあり、職員全員が見れるように、また、すぐに調べられるようにしている。症状の変化があった場合、薬の担当者がドクターと相談の上、処方してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝いや片付け他、日々の生活の中で必要な仕事の手伝い、秋には栗拾いや庭掃除、草取りなど各自できる範囲で行っている。日々のレクリエーションを行ったり、外出支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、時々散歩に出かけたり、外食もされている。また、出かけた時の写真を家族に見て頂いている。	天気の良い日は涼しい午前中に散歩に出かけている。ホームの周りは静かな環境に恵まれており、散歩コースが幾通りもある。年間の行事計画には外出行事も盛り込まれている。ホームの食材の買い出しに入居者が同行することもある。	

ヒューマンヘリテージ小布施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは、職員が管理しており、高額な買い物などは、本人や家族と話し合い、承諾を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に帰りたい」、「家の人と話したい」と訴える方には、事務所から電話をかけ、家族とゆっくり話して頂いている。また、暑中見舞いや年賀状を一人ひとりが一言を書いて家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房やエアコンもあり、適度な温度管理をしている。リビングも落ち着いた感じになっており、壁には季節を思い出せる塗り絵の作品を飾っている。	リビングダイニングになっており、常に職員と入居者が顔を合わせられるようになっている。食堂にはテーブルやベンチがあり、リビングの一部に布団を敷きお昼寝をする方もいる。エアコンを使用していたが空気が流れるような感じが心地よかった。廊下の本棚には沢山の本が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1つのテーブルを囲み、楽しく会話や、テレビを見たり、レクリエーションを楽しんでいる。また、休みたい人は、ホールの長座布団で横になって休んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、トイレ、洗面所が設置されている。また、入居前までの生活用品が持ち込まれ、その人らしい居室となっている。湿温湿度計も設置しており、加湿器もおいている。	居室にはトイレと洗面台が設置されている。クローゼットも広く、思い思いの衣服が掛けられている。各居室もそれぞれの入居者の雰囲気が伝わる飾り付けや配置がされている。位牌やテレビ、いす、家族よりのプレゼントのぬいぐるみなどが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所用品の片付けができるよう、引き出しにネームを付けている。洗濯物をたたんでいただいたり、毎日の仕事にできるかぎり携わっていただいている。		